

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## 複数回のプレゼンテーション練習の観察結果に基づく学習者による評価指針の作成

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2026-01-20 キーワード (Ja): プレゼンテーション練習, 自己評価, 評価指針, グルーピング キーワード (En): 作成者: 山口, 昌也, 北村, 雅則 メールアドレス: 所属: 国立国語研究所, 南山大学
URL	<a href="https://repository.ninjal.ac.jp/records/2000591">https://repository.ninjal.ac.jp/records/2000591</a>

# 複数回のプレゼンテーション練習の観察結果に基づく 学習者による評価指針の作成

Development of Evaluation Guidelines by Learners Based on Observations from  
Multiple Presentation Exercises

山口 昌也\*<sup>1</sup> 北村 雅則\*<sup>2</sup>  
Masaya YAMAGUCHI\*<sup>1</sup> Masanori KITAMURA\*<sup>2</sup>

国立国語研究所\*<sup>1</sup> 南山大学\*<sup>2</sup>  
National Institute for Japanese Language and Linguistics\*<sup>1</sup>  
Nanzan University\*<sup>2</sup>

<あらまし> 我々は、ビデオアノテーションを用いて、グループプレゼンテーション練習を相互・自己観察する実践を大学の初年次教育で行ってきた。本発表では、観察結果をグルーピングすることにより、学習者自身がプレゼンテーションの評価指針を作成する方法を検討した。2回の練習結果を筆者らが試験的にグルーピングしたところ、それぞれ6、9個のグループを持つ評価指針として体系化され、その過程で学習者が新たな気づきを得られる可能性が示唆された。

<キーワード> プレゼンテーション練習, 自己評価, 評価指針, グルーピング

## 1. はじめに

我々は、ビデオアノテーションを用いて、グループプレゼンテーション練習を相互・自己観察する実践を大学の初年次教育で行ってきた(北村 2023)。この試みでは、事前に設定した評価観点に基づき、各学生が他のグループのプレゼンテーションを観察したのち、他の学生から受けたアノテーションとビデオを参照しつつ、自分のプレゼンテーションを振り返り、自己評価する。プレゼンテーション練習は各グループともに複数回行う。

この実践の特徴は、ループリックで用いられるような固定された評価基準を設けず、相互・自己観察をとおした学生自身の自発的な気づきを重視している点である。その一方で、自己評価が個々のアノテーションの自由記述のコメントとして記述されるため、個人レベルの問題点や改善点の把握に留まり、気づきが体系化されないという問題があった。

そこで、本発表では、自己観察結果のコメント集合をグルーピングし、ラベルをつけることにより、観察結果を評価指針として体系化する方法を検討する。また、実際の観察結果を筆者らが試験的にグルーピングした結果を考察する。

## 2. 対象とするプレゼンテーション練習

まず、対象とするプレゼンテーション練習の概略を示す。詳細は、北村(2023)を参照されたい。練習の手順は、次のとおりである。

- (1) 教師が観察の観点を設定する。北村(2023)では「スライド」「話し方」など6種を設けている。
- (2) 3、4名のグループでプレゼンテーションを行い、聴衆の学生がスマートフォンで気になったシーンにリアルタイムアノテーションする。アノテーションは、観察支援システム FishWatchr Mini で行う。一つのアノテーションは、観察の観点とその良否のペアである(例: アイコンタクト・良)。
- (3) 全グループの発表練習後、全聴衆のアノテーションを合併し、自分たちが受けたアノテーションに自己評価のコメントをつけつつ、各自振り返りを行う。この際、PC版の FishWatchr を使用し、プレゼンテーションのビデオとアノテーションとを同期させて、コメントづけする。

## 3. 評価指針の作成方法

### 3.1. 基本的な考え

評価指針は、2節のプレゼンテーション練習の手順(3)で収集されるコメント集合を学習者が観察の観点ごとにグルーピング・ラベル付け

することにより作成する。これは、KJ法などで行われているように、コメント間の関係をまとめ上げていく過程で、学習者自身がどのようなことが必要かを検討するよう促すことをねらっている。グルーピング自体は、次のように、個々のグループ(のラベル)が木構造で構成される、シンプルな方法を想定する。

- ・類似するコメントをグルーピングし、それらの内容を代表するラベルをつける
- ・ラベル自身も再帰的にグルーピング、および、ラベル付けする

なお、練習の手順(3)で行うコメントは自己評価のコメントであるが、他のメンバーもグルーピングで用いることを考慮する。具体的には、良好な評価を受けたアノテーションの場合は、何かがどう良かったのかを、否定的な場合にはどうすれば改善されるのかを明確に記述する。

### 3.2. 段階的な評価指針の作成

プレゼンテーションの練習は、2回行うものとし、次の流れで、段階的に評価指針を作成していく。なお、グルーピングを個人でやるか、グループでやるかは未定ではあるが、最終的な結果はグループなどの単位で共有する。

- (1) 教師が観察の観点を設定
- (2) プレゼンテーション練習 (1回目)
- (3) グルーピングにより、評価指針を作成。作成後、各学習者は、否定的な自己評価のコメントを含むラベルや、他者のコメントで自分が習得できていないラベルなどを対象に2回目の練習の目標をたてる。
- (4) プレゼンテーション練習 (2回目)
- (5) グルーピングにより評価指針を作成。作成後、目標が達成されたか評価し、最終的な評価指針を作成する。

## 4. 評価指針作成の試行

### 4.1. 概要

北村・山口(2025)で行った、2回のプレゼンテーション練習で収集されたアノテーションを対象に、筆者らが評価指針の作成を試行した。参加者は19名(3~4名の5グループ)、コメント付きのアノテーションは1回目、2回目それぞれ89、92個である。授業に関する詳細なデータは北村・山口(2025)を参照されたい。

### 4.2. 試行の結果

本稿ではスペースの関係上、観察の観点「スライド」を対象に試行結果を図1に示す。コメント数は1回目、2回目それぞれ19、23個である。この図では、ルートのラベルを「よいスライドにするには」とし、2階層までのラベルを表示している。コメントについては省略する。

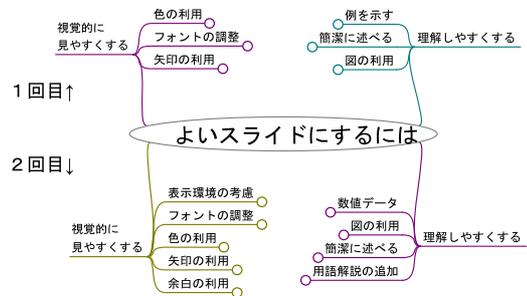


図1 評価指針作成の試行結果

### 4.3. 考察

図1より、評価指針の第2階層のレベルで、1回目、2回目それぞれ6、9個のグループとして体系化できたことがわかる。学生の付与したコメントは一人あたりたかだか3個だったので、グルーピングの過程で何らかの新たな気づきを得られる可能性が高い。また、二つの評価指針を比較すると、おおむね1回目の結果を2回目が含ましつつ、グループ数が増加している。これは、新たな気づきがコメントとして表出され、体系化される可能性があることを示唆する。

## 5. おわりに

本発表では、プレゼンテーション練習の自己観察結果をグルーピングすることにより、評価指針として体系化する方法を検討した。さらに、2回の練習結果から試験的に評価指針を作成し、その過程で学習者が新たな気づきを得られる可能性があることを示した。

謝辞：本研究はJSPS 科研費 23K02701 の助成を受けた。

### 参考文献

- 北村雅則(2023) スマートフォンを使用した相互評価に見られるアノテーション傾向と問題点の分析, アカデミア. 人文・自然科学編, 25:183-195.
- 北村雅則, 山口昌也(2025) 評価指針を作成するための振り返りコメント分析, 日本教育工学会 2025 年春季全国大会講演論文集